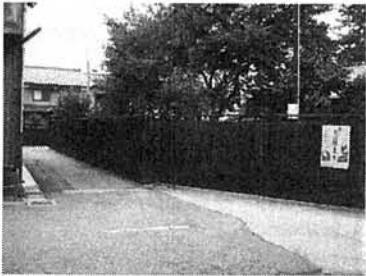


市民の手作りによる町屋小路 600 mの黒塀建設と灯の祭

チーム黒塀プロジェクト
(新潟県村上市)



黒塀が続く町並み1



黒塀が続く町並み2

I. 活動の背景と目的

新潟県村上市は県内でもっとも古い城下町と言われ、歴史的建築物が多数残っています。しかし地域の人はその価値に気が付かず、それを充分活かしてもおらず、逆に町は近代化が進んでき、中心市街地は衰退を続けていました。そんな折危機感を強くした市民が立ち上がり、市民の力で伝統的建造物である「町屋」に光を当てたイベント「町屋の人形さま巡り」(3月1日～4月3日)、「町屋の屏風まつり」(9月10～30日)を行ない、これが大成功して町に春、秋には数万人もの人が訪れるようになったのです。村上にとって大変革でした。このような流れの中で市民の意識は変りだし町に対する誇りを持つようになってきました。また「村上には旅人が訪れるようになったのだ。昔のような風情ある町にしよう」といった町並みの保存、再生の気運が高まってきました。そこで「誇りある町づくり」と「地域の活性化」のために住民が発起人になって市民グループ「チーム黒塀プロジェクト」が結成されたのです。

1-1. 黒塀プロジェクト

村上には歴史的建造物が多く集まる小路（安善小路と周辺）があります。村上の中でも城下町の風情漂う場所ですがやはり充分には生かされていませんでした。風情ある黒塀（黒板塀）もある一方、現代的ブロック塀が多く占める半端な状態でありました。しかしここは可能性を秘めた場所で、少し手を加えることによって小路の景観が見違えるほど変わるはずだと思いました。黒塀に変えることでここが地元の人にとっても風情ある安らぎの場所になり、この小路が歴史的建造物が集まる「黒塀通り」として名物スポットとなり今まで以上に旅の人が立ち寄る場所になるのです。商店街の活性化にもつながり、さらに村上の発展のための力となります。この夢を実現するために行なう黒塀化計画「黒塀一枚1000円運動」とこの黒塀の小路で竹の灯篭を使った灯りのまつり「むらかみ宵の竹灯篭まつり」の2本柱が「黒塀プロジェクト」です。

1-2. 黒塀一枚1000円運動

黒塀はブロック塀を壊して新たに作るのではなく、ブロック塀の上に板を打ち付け表面のみ黒塀に変える手法で行うものです。安い工事で安くでき、景観の向上には著しい効果を果た



黒塀プロジェクトの案内
(チラシ)

します（個人のブロック塀を使うのですから家主の同意をうけた塀に限って行ないます）。「黒塀一枚千円運動」とは市民をはじめ幅広い人から黒塀一枚1000円の寄付を募り、集まった寄付金で黒塀を作っていくものです。黒塀の製作は大工まかせではなく子供からお年寄りまであつまり市民の手作りで行なうものです。これにより市民がお金を出し、市民が手作りで作る、市民の愛着のある黒塀となるのです。

1-3. 宵の竹灯籠まつり

単に黒塀を作るだけではなく、できた黒塀の通りに光りを当てる光と音のアートプロジェクトです。門松のように斜め切りした竹3千本（高さ40～60cm）にロウソクの灯りをともし、この小路約200mと料亭の庭やお寺の境内、民家の庭に並べます。3千本の灯りがユラユラと揺れ動くさまは実に幻想的な雰囲気を作ります。この雰囲気の中で料亭の座敷、古民家、お寺のお堂、境内を使い伝統音楽である雅楽、琴、三味線、尺八、和太鼓、ピアノなどを市民の演奏家が演奏します。光りと音のこの催しは今まで村上にはなかった夜のおまつり（アートプロジェクト）です。これを継続していくば県内外に名を轟かす村上の名物イベントに発展する可能性が強い企画であると思っています。

II. 活動の内容

2002年の一年間で黒塀プロジェクトは動きだし約110mが市民の力で黒塀になりました。「宵の竹灯籠まつり」は10月に2日間行なわれ5千人もの人が訪れ、内容的にも非常にレベルの高い光と音のアートプロジェクトになり大きな話題となりました。黒塀の並ぶ城下町らしい通りを整備し町並み景観を整えるだけに留まらず、この通りに更に光りを当てるための「宵の竹灯籠まつり」を行う、これは村上に芽ばえ始めた活性化の動きと町並みの保存、再生の気運に大きく拍車をかけることになったのです。

2-1. 「黒塀一枚1000円運動」140mの黒塀完成

当初の計画は3月から一ヶ月間行なわれる「町屋の人形さま巡り」が終了してからの黒塀一枚千円運動で寄付金を募り、6月から8月迄のうち一定区間を市民の手作りで黒塀にする計画でした。しかしこの黒塀プロジェクトが、何も始まっていない1月に新聞で大大的に取り上げられ、チラシを作る前から寄付金が集まり始めたのです。さらにメンバーの中から、寄付金を本格的に集めるためにも一区間でもいいからサンプルとなるような黒塀を作つて披露したほうがいいのではという意見や、どうせやるなら観光客が大勢来る「人形さま巡り」の前にこのサンプルを作つてしまおうではないか、などの積極的な意見が出さ



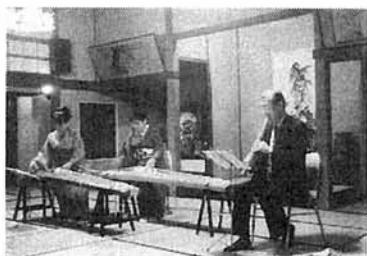
宵の竹灯籠まつりの案内
(チラシ)



黒塀一枚1000円運動で
寄付金を募っている



宵の竹灯籠まつりのようす



宵の竹灯籠まつりでの和楽の演奏会

れました。結局、2月の末に60m区間を黒塀にしてしまったのです。そしてかつて武家屋敷のイベントで使った簡単な塀（仮塀と呼ぶ）が保管されていることが分かり、これを使用してもいいということになりました。黒塀プロジェクトの黒塀は縦板形式でありブロックに直接張り付けていくものですので、予定の黒塀とは違うのですが、これも仮の塀としてとりあえず使用すればベロック塀の小路が一時的であるとしても、広い範囲で景観ががらっと変り、市民もこれは良いと関心をよせるようになるのではないかと考えました。予定外であった仮塀90m分も取り付け、黒塀60mとあわせ合計で150mの塀が3月を前に完成したのです。「夢を語っていたら本当に実現してしまった」と早期において予想以上の長い区間が黒塀と仮塀に変身してしまったことに、中心メンバー自身はみな驚いたのです。集中的に行なった第一期工事の2月24日は青年を中心に子供からお年寄りまで60人ほどが駆け付け、釘打ちや黒ペイント塗りなどそれぞれができる仕事を行ないました。テレビ、新聞などのマスコミも多数来て報道され、村上の黒塀プロジェクトは県内に一举に広まったのです。7月の下旬と9月の始めに2期、3期の工事を終え現在、黒塀が110mと仮塀が20mとなっています。

2-2. 「宵の竹灯籠まつり」の実施

竹灯籠まつりは黒塀の通りにある料亭「新多久」で「竹あそび」と称して独自で行なったことがきっかけで始まったことです。「もっと規模を大きくしてこの小路の200m区間でやろう」「村上には今まで夜の灯りのまつりはなかった。あっと驚くようなことをやって村上の名物を作ろう。」と意気込んで計画ができました。計画がすぐにできたのも実は（竹は加工することと技葉を処分することが非常に厄介なのですが）、「新多久」の口つきで同じ郡内にある栗島浦村から竹を既に加工したものが、1本100円の破格値で取り寄せ注文ができると知ったからなのです。あとは竹を並べてロウソクを入れ火をつけるだけでいいと実は安易な動機より始まったのですが、物事そんなに簡単に行くものではありません。竹灯籠まつりの2ヶ月前になって突然、竹の加工をする人からとても大変なので3000本は無理だ、1000本にしてくれと連絡がきたのです。残りの2000本を一体どうするということになり、慌てて大工さんに相談、竹を譲ってくれる人を探し、仲間を集めて竹を切ろうということになりました。山の斜面の竹林より土まみれになり竹を切り出していました。竹を切る若い仲間を集めることから大変で、竹切りの作業も悪戦苦闘しながら行ないました。切りだし作業が終ったのは竹灯籠まつりの1週間前のことでした。

また「竹灯籠が3000本あっていくら美しくても単に見て終りになってしまう。もうひとひねりしたほうが良いのではないか」との意見から、急きょ普段はなかなか聴くことのない和の音楽

演奏をやろう、料亭や古民家の座敷、お寺のお堂や境内でやつたらきっと素晴らしいということになりました。さっそく市民で和楽をやっている人を調べ、雅楽はじめ琴、三味線、尺八、和太鼓、大正琴、津軽三味線、ピアノの演奏家に参加依頼をし、嬉しいことに皆快くボランティアで引き受けってくれました。この演奏家に呼び掛けたのがなんと9月初め、ドタバタとことは進み、ポスターが丁度1ヶ月前に間に合いました。天気にも恵まれて本番を迎えるもドタバタの繰り返しのなかで、やっと開幕しました。1日2500人（2日間で5000人）の人が訪れるこの小路始まって以来の大賑い、予想を上回る光りと音の織り成す素晴らしい芸術祭となり、訪れた人は皆感動してくれました。この竹灯籠まつりは、今後もっともっと凄いものになっていくと確信しながら全て無事終了しました。

黒塀のできるまで



III. 活動の効果及び今後の課題

「黒塀一枚1000円運動」の課題としては黒塀にしたい塀であっても住人の同意が得られず手が付けられないところもあることです。黒塀の良さを時間をかけて理解してもらい、あせらず続けて行こうと思っています。また寄付金は90万円もあつまつたのですが工事費用が予定よりもかかり、余裕をもってはやれない状況です。背水の陣の気持ちで、先ずは作ってしまってそのあと寄付金を必死になって集めようということで、3期の工事は金足らずのところで行なったりしました。またこの運動を理解し、自費を投じて自分の敷地のブロック塀を黒塀に変えてくれる住人も現われたことは非常に嬉しいことでした。

「竹灯籠まつり」の課題は、これから規模を拡大しもっと広い範囲でやれたらもっと凄くなるのですが、それにはスタッフと協力者、そして資金が必要だということです。この問題をクリアしながら全国にも名を轟かす素晴らしいアートプロジェクトに発展させていきたいと思います。

この「チーム黒塀プロジェクト」の中心メンバー2人は「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」の主催団体「村上町屋商人会」のメンバーでもありますが、今まで話題を巻き起したこれらの町屋のイベントで関わることのなかった市民が、この黒塀プロジェクトでは参加、協力し町づくりの一端を担ってくれました。新しい市民が町づくりの仲間に加わってくれたということは、和が広がりもっと色々なことができることであり、町を思う気持を持った市民が増えることは、これからもっと町が良くなつて行くということにつながると思います。今の村上は「村上町屋商人会」や「チーム黒塀プロジェクト」の市民自らの心意気で行なうこれらの取り組みに刺激を受け、行政や商工会議所に頼むという姿勢から、それらを当てにせず町は自らの心意気で良くするという考えを持ち始め、行動する人達が増え始めました。黒塀プロジェクトなど単独での成功の範囲に留



まらず、刺激となり連鎖し合って広がっていく今の町の風潮は
実に素晴らしいと思います。町を本当に良くするにはやらなければいけないことは山程ありますが、市民の心意気が他の市民
の意識を変え、行政も変え、町を変えていくと信じこれからも
活動に取り組んで参りたいと思います。

<団体活動データ>

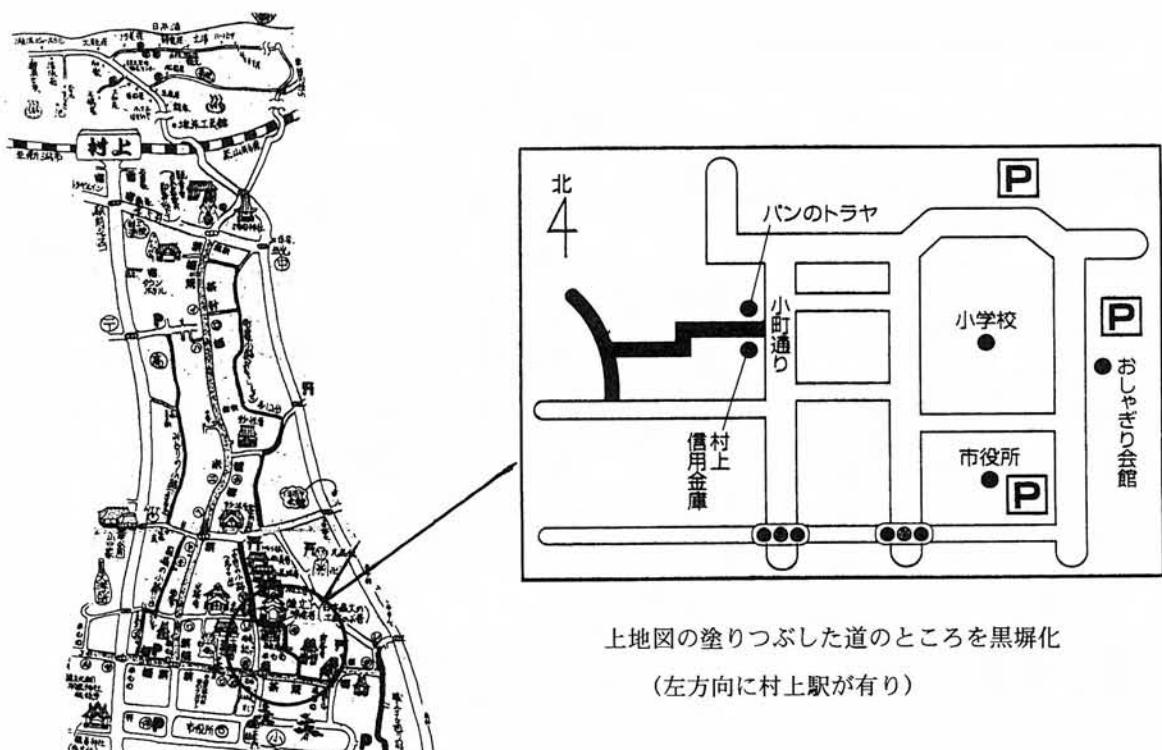
■チーム黒塀プロジェクト

活動テーマ	市民の手作りによる町屋小路 600m の黒塀建設と灯の祭
活動目的	村上市内の歴史的建造物が集まる小路において、ブロック塀を風情ある黒板塀に変えることで、歴史的景観を復活させ、誇りあるまちづくりと地域活性化につなげること。
設立年月	2001 年 10 月
代表者名	山貝博
活動地域	新潟県村上市
メンバー	12 名 商店主、住職、建築家、写真家等

●団体設立の経緯

市街地衰退の問題を抱える、かつての城下町村上市で、危機感を覚えた商業者有志（村上町屋商人会）によって歴史的建造物や歴史的資産を活かしたまちづくり、活性化を図ろうと、「町屋の人形さま巡り」、「町屋の屏風まつり」などのイベントを行った。これらの街を回遊するイベントによって多くの人が村上市内を歩くようになった。そこで、村上の町並を保存・再生しようとする気運が高まり、村上町屋商人会のメンバーや他の市民とともに、歴史的建造物多く集まる小路を昔ながらの黒塀が立ち並ぶ通りにしようと結成された。

●活動地域図（活動位置図）



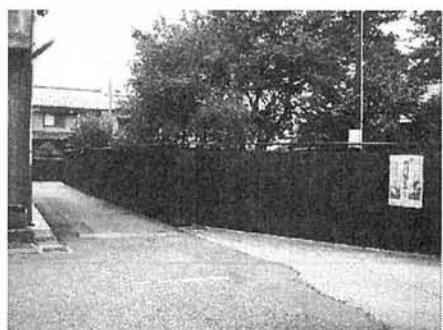
●これまでの活動

所有者の了解を得たブロック塀の上に黒板を打ち付け、黒塀に変える手法をとった。黒板は市民から板一枚 1000 円で寄付を募った。黒板の製作と取り付けは市民の参加を募り、手作りで行った。

2002 年 2 月 3 月から行われる「町屋の人形さま巡り」の前に小路 60m 区間を黒塀に変える。



取り付け作業の様子



取り付けが終わった状態

●助成対象活動

2期にわたり、黒塀の取り付け工事を行う。また、黒塀を取り付けた通りで夜に風情ある空間を演出しようと、ろうそくを入れた竹 3000 本を並べる「竹と灯籠まつり」を行った。そこでは料亭や古民家の座敷、寺のお堂の中で市内の琴や三味線などの和楽器ができる人を呼び、演奏してもらった。

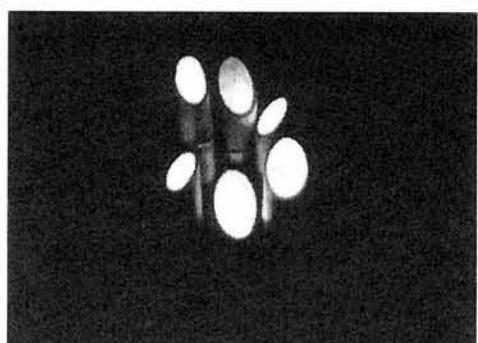
2002 年 7 月 第 2 期黒板取り付け

9 月 第 3 期黒板取り付け

10 月 竹灯籠まつりの実施（2 日間）



竹灯籠まつりでの雅楽の演奏



竹灯籠

●これからの予定

引き続き、黒塙に黒塙にする活動は行う。竹灯籠まつりも今後毎年開催してゆく予定。



村上町屋商人会が開催する
屏風まつり